



通明小だより

平成26年12月18日

只今、師走。年の瀬が近づいてまいりました。

一年間、ありがとうございました。

早いもので、もう二学期も終えようとしています。二学期の始まりは、仮設校舎での生活でしたが、それも、遙か昔のような感じさえします。高原学校や東京社会見学といった大きな行事を体験した学年もあります。仮設校舎から新校舎への引っ越しでは、児童の皆さんの頑張りに、更に、保護者の皆様のご協力があり、スムーズに実施することができました。充実した音楽会の各場面も思い起こされます。そして、先月は、竣工式という大きな行事に立ち会う機会をいただきました。今年だからこそ、今だからこそ、体験できたことがつまった充実の二学期になりました。

さて、下の写真ですが、先月の竣工式の際、竣工記念事業実行委員会様よりご寄贈いただきました記念の品の中の「桐の木、けやきの木の樹勢回復費用」を使用し、樹木医さんとスタッフの方々により、桐の木・樺の木等の治療を行っていただいたときのものです。



桐の木は、特に弱っているという事前の見立てでしたが、実際に、根を掘り出し、治療を行う中で、上の写真の手前に写っているようなコンクリートがたくさん出てきて、樹木医さんは、「これでは、根が生長をやめてしまいますね」「根が苦しいと言っているのがわかります」と話してくださいました。根の周りの土を掘り起こし、石をどかし、まるで化石発掘のように根を傷つけないように掘り出したところにゼオライト等の土壌改良成分を含んだ治療薬をたい肥にすき込み、ふかふかの土を根の周りに施しました。枯れ枝も落としました。今は、寒いので、目立った効果はないとのことですが、来春の芽吹き的时候了から、じわじわと効果が出てくるはずですよということです。本校のシンボルの桐の木に青々とした葉が茂ることを期待して見守りたいです。

樹木医さん曰く、「木の剪定をする人は多いけれど、一度植えた木の根を手入れすることは、ほとんどないですね」「根こそが大事なのですが」。そんな話をいただくと、右の相田みつおさんの詩が思い起こされます。

花を支える枝
枝を支える幹
幹を支える根
根はみえねんだなあ

*相田みつおさん にんげんだものより

木も人も同じだなあと 생각합니다。桐の木に教えていただきました。